

あいである REPORT

NUMBER
18



令和7年6月

**801名に実家便を
発送いたしました！**

新規:230名 継続:571名



『実家便』活用の「声」をご紹介します！



中村 先生

家便便は令和4年度より利用させていただいております。毎回、たくさんの食料品や生活用品をお送りいただき、大変感謝しております。中でも、子どもたちが自分ではなかなか買い揃えることがない防災用品が充実していることに、感謝するとともに大変感心しております。地域特性も手伝ってか、私をはじめ多くの人が、防災意識が低いのが現状です。実家便の中身を拝見し、非常持ち出し袋等の物品だけではなく、防災アクションガイドやチェックシートなど、子どもたちの意識を高める資料も入れていただき、本当にありがたく思っております。今後、施設内でも防災に関する知識やスキルを学ぶ機会を作る必要があると強く感じた次第です。また、代表理事木皿様からのメッセージにも感謝しております。毎回心温まるメッセージを子どもたちにお届けいただき、本当にありがとうございます。

さて、私とは言いますと、令和2年度末に中学校教員を定年退職し、その後、現職に就きました。まだ、福祉職5年目の新米です。令和3年度に入社し、当時始まったばかりの自立支援担当職員として手探りでここまでどうにかやってきました。その間、当園の職員だけでなく、県内の自立支援担当職員部会の皆さんや研修会等で知り合った多くの同業の皆さんから様々なことを教えていただきました。その一つが、あいであるさんの実家便でした。会ったことも話したこともない卒園生とつながるためには、やはり何らかのアイテムが必要で、中

でも食糧支援は多くの子どもたちが喜ぶものです。こちらとのつながりを作るために、実家便を大いに活用させていただきました。施設職員からのメッセージについては、卒園時の担当職員に依頼することで、子どもたちと担当職員とのつながりの一助となったと感じています。

しかし、こちらの不手際であいであるさんにご迷惑をおかけしたこともありました。その際にも丁寧に対応していただき、本当に感謝しております。この件をととして、宅配便の不在票の扱いや郵便受けを日々確認する習慣などが、ある程度の年齢になっても身に付いていない子どもがいることに気付かされ、今後のリーピングケアに生かさなければならぬと感じた次第です。卒園生も私たち職員もたくさんの学びがある実家便を、これからも利用していきたいと思っております。

下関大平
学園



宮島 先生

あいであるさんの実家便を利用させていただくようになって、もう何年になるでしょうか？こちらの記録から見ますと、かれこれ10年近くになるでしょうか？

その間、何人の卒園生がお世話になったでしょう…お世話になり、本当にありがとうございます。

実家便の利用が、今では退所者支援の1つになり、施設を離れ、今までとは違う生活の中で新たな不安、試練と日々葛藤している子ども達の大きな安心感になっていると思います。我々職員からも「何かあったら言ってね。」と声を掛ける姿勢でいるものの、なかなか子ども達からの発信は低く、大きな問題になってから関係機関からの連絡を通して、退所後の子ども達の様子を知る、という事が時々あります。そこで子どもから言われる言葉が、「言えないよ。迷惑かけちゃうし。」「みんなが応援してくれて見送られたから気まずくて…。」などでした。退所後の子ども達が危機的状況になる前に、日頃から見守っているよ、という姿勢を、どのように伝えるかが大切で、それこそが、あいであるさんの実家便ではないか、と思います。

子ども達のことを考えて、もらっても困らない品物や手軽に食べられる食材、その中に愛ある手紙が添えられている…。施設職員からの手紙も、子ども達に気持ちを伝えるよい機会になっています。子ども達からも、「毎回入っている手紙、つつい読んじゃうんだよね！」「なんかじーんときた。」とコメントをもらいました。そこで、あいであるさんの実家便をヒントに、2022年から、ホザナ園のメインイベントであるイースターとクリスマスの年に2回、題して“ホザナ実家便”を卒園生に送ることにし

ました。春はあいであるさんと同じように食材やお菓子の詰め合わせ、クリスマス時期には寒い時期にピッタリの身体が温まるスープやカップ麺などと、職員からのクリスマスカードも一緒に添えて送っています。最近では、子ども達ひとり一人の好きな食材を1つでも入れられるように、「好き嫌いアンケート」を実施し、なるべく好みに合うように詰め合わせ、『今でもあなたを大切に思っているよ』というメッセージを込めて送っています。

送った後に、子どもからのお礼のメッセージや近況報告をもらうことが出来るようになりました。このようなつながりを通して、施設に顔を出してくれるようになったり、「生活がピンチだから食材もええですか？」と言えるようになった子どももいます。ホザナ園が子ども達にとって第二の実家になれるよう、あいであるさんからの実家便、寄付を下さっている方々の助けを借りながら、これからも職員みんなで子ども達を見守っていこうと思います。

ホザナ園



施設を退所し、自活をスタートする皆さんへ

「見守っています。」という気持ちを込めて、初めての 実家便を発送しました。

新規支援者へ
発送した実家便

防災用品はこんなものが
入っています！

- ☐ 携帯用トイレ
- ☐ イベントリュック
- ☐ 緊急用呼子笛
- ☐ 防寒シート
- ☐ 非常用食器折り紙
- ☐ コンパクトLEDランタン
- ☐ 単3アルカリ乾電池4本パック
- ☐ 軍手
- ☐ 使いすてカイロ
- ☐ 絆創膏
- ☐ アルコール除菌
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ 不織布マスク
- ☐ カードケース
- ☐ 緊急連絡カード
- ☐ ひえぶるやわらかまくら

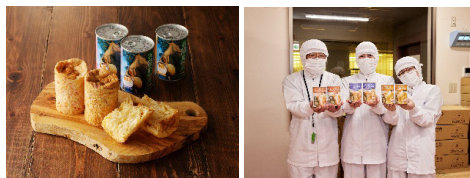


新規支援者への初回実家便は
災害時に役立つ防災用品、長期保存可能な
食品が中心です！

ご協賛
企業の
ご紹介

株式会社パン・アキモ様

CONFECTIONERY おいしさとお届けします
パン・アキモ



実家便に救缶鳥(パンの缶詰)をご提供いただいています！

会社紹介 株式会社パン・アキモは、1947年に創業し栃木県学校給食の指定工場になるなど、地元のパン屋として親しまれ、発展していきました。1995年に発生した阪神・淡路大震災の被災者の声をきっかけに「パンの缶詰」を開発。2004年に発生した新潟県中越地震では被災者から高い評価を受け、その価値が全国へ広まっていきました。

「パンの缶詰」は缶詰とはいえ、賞味期限が来ると廃棄処分される運命にあります。そんな中、スマトラ沖地震の被災地から「賞味期限の切れる前のモノ(中古品)があったら送ってほしい」との連絡を受けました。片や捨てられてしまう可能性のあるパンの缶詰、そしてもう一方で中古品でもよいから送ってほしいと求める災害被災地や飢餓に苦しむ国々…。この2つを同時に解決出来る仕組みが「救缶鳥プロジェクト」です。

個人・法人企業・学校等向けに、「パンの缶詰」を販売し、賞味期限が切れる前に、次回の再購入を条件のもとに、回収します。その回収した缶詰を、世界中の飢餓や貧困で苦しむ地域の人々や国内で必要とされる方へ無料配布します。それによって、新たな売上と社会貢献の両立という仕組みを可能にしています。購入者は災害に備え、新たな備蓄を行うことができ、一方で、社会にも貢献できる。全ての関係者にとって、ハッピーなビジネスモデルを実現しています。そして、ボランティアという形式ではなく、あくまでビジネスとして社会貢献に関わる。そこに弊社のポリシーがあります。現在、2016年から2030年までの国際目標「SDGs」にも該当する商品としても注目を浴び、約400団体が「救缶鳥プロジェクト」に参画しております。



公益財団法人
お金をまわそう基金

お米の購入費用として助成金 をいただきました！

引き続き、実家便に同梱する「お米」の購入費用を「お金をまわそう基金」の寄付サイトにて集めています！



QRコードからご寄付
いただけます▶

受付期間は2026年3月末まで



継続支援者へ
発送した
実家便



公益財団法人
あいである

〒105-0004
東京都港区新橋1丁目18-16
日本生命新橋ビル3F